

第9回 こども10円商店街 実施報告書

NPO 法人 まちなびや

◇事業趣旨

子どもが商品販売やサービスを提供する「自分の店」を企画運営する体験を通して、多世代の人々との関わりを学習する。また、大人がお客となってこども店長を応援することで、地域の教育力向上を目指す。

◇実施内容

1 第1回店長会議 10月7日(日) 9:30~11:30

静岡市番町市民活動センター 大会議室

参加者 こども店長 20名 保護者約 15名 スタッフ 7名

- ・保護者・こども合同ガイダンス
- ・販売品・提供サービス、店名を決める
- ・あいさつの練習
- ・看板(のぼり旗)づくり

※11:30~14:00まで、昼食後に商品・看板製作(希望者 13名ほど)



2 第2回店長会議 10月14日(日) 9:30~11:30

静岡市番町市民活動センター 大会議室・中会議室

参加者 こども店長 25名 スタッフ 6名

- ・販売リハーサル・売上表記入練習

※11:30~14:00まで、昼食後に商品・看板製作(希望者 13名ほど)

3 こども10円商店街本番 10月28日(日) 10:00~12:00・13:00~15:00

静岡市番町市民活動センター 大会議室前 入口スペース

参加者 こども店長 23名 スタッフ 8名 しずおか信用金庫 13名

一般来場者約 1,600名

- ・販売、サービスの提供 → 総売上 9,590円
- ・両替対応・売上集計(協力:しずおか信用金庫)



<出店一覧（全13店舗）>

販売系	ゲーム・くじ系	サービス系
キラキラアクセサリ おりがみ屋 朝つゆ ざっかや	レトロゲームストラック アウト たこつり 何でしょう屋さん 音フェチくじ屋 たこつり わくわくくじ屋さん 楽しいスーパーボールす くい屋さん なげわなげ ボーリングや	スライム

4 第3回店長会議 11月4日（日） 9:30~11:30

静岡市番町市民活動センター 大会議室

参加者 こども店長 25名 大人スタッフ6名 寄付先2団体5名
(鈴木邸子ども自然遊びの会 光後様、おはなしバスケット 熊谷様)

- ・ 寄付先団体からのプレゼンテーション
→こども店長による投票・寄付金贈呈式
※金額：鈴木邸子ども自然遊びの会 6,140円、おはなしバスケット 3,450円)
- ・ 振り返り（3~4店舗ずつのグループで意見交換）
- ・ スペシャル商店街（10店舗出店）



◇広報

- ・ 店長募集チラシ（総計 5,000部配布）
小学校 2,600部（葵小 500部・安西小 360部・
番町小 600部・駒形小 240部・附属小 900部）
図書館・生涯学習センター・生涯学習交流館・るくる等 800部
児童クラブ 280部
池田屋（助成団体） 100部
静岡市番町市民活動センター 100部
しずおか信用金庫 100部 ほか
- ・ 店長募集の案内をコードモンデ 40号に掲載（30,000部）、市内小中学校に配布

◇事業の成果

これまでの実施も含めて、10円商店街の成果として二つ挙げる。

○子どもたちが現金でお店を企画、運営することで、どんなモノ・サービスが提供できるかを考える大切な機会となった

事前2回のワークショップの中で、接客(声だし、挨拶、お辞儀のマナー)、お金の扱い方など、店舗運営のために必要な知識を学んだ。お店づくりでは、グループの中で店の内容や手順などを話し合い、リハーサル等行い準備を重ねた。本番では客を積極的に呼び込むこともでき、ワークショップの成果が発揮された。さらに、最後の店長会議で行ったスペシャル商店街で、本番忙しかった店長たちは、お客となってゲームや買い物を楽しむことができた。お店を開いた店長たちは本番を振り返りながら楽しく接客を行っていた。このように10円商店街をお客の立場からも体験するということが、最後の振り返り活動として有意義であったと考える。

○売上を寄付したことにより、人の役に立つことを実感できたこと

本番の売上金は、寄付先候補団体のプレゼンテーションを聞き、子どもたちが意味あると感じるところに票を投じた数に合わせた金額を寄付した。自分たちが暮らす地域の中で、小さいけれど人の役に立つ活動をしている団体に対して、子どもたちは投票先を真剣に悩み考え、決めることができた。自分で稼いだお金の寄付先を決定するという行為は、誰かの役に立つことを意識する貴重な体験となった。

さらに、第9回実施の成果として二つ挙げる。

○本事業に対する子どもたちの満足度が高い

子どもたちには、店長会議各回と本番の終了直後、ふり返しシートを記入してもらったが、「今日の10円商店街本番はどうだったかな？」という質問に対して、83%のこども店長が「とてもたのしかった」と回答した。前回同様、店長会議にてこども店長が主体的に活動できる場面を多く設け、本番でお店をやり遂げたことによって、達成感が大きかったのではないかと考える。

○商品づくりの時間を確保したことによる商品・景品の数の増加・質の向上

これまで商品・景品については、店長会議以外の時間と、第2回店長会議の終了後に設けた商品作りの時間で、お店ごとで作成してもらった。しかし今回は、第1回店長会議終了後にも商品作りの時間を設けることにより、商品・景品作りやその相談ができる機会を増やした。それにより、100個を目標としていた商品・景品を、全てのお店で平均150個作り、本番に臨むことができた。

また、10円商店街終了後に保護者にもアンケートを実施したが、本事業への満足度も高く、学校では見ることができない子どもたちのいきいきとした姿に喜ぶ声が多数寄せられた。回答者全員が「お子様をまた『10円商店街』に参加させたい」に肯定的な回答を示した。

一方、今後の課題として、下記が挙げられる。

●売上表の計算が上手くできない

各お店には、売り上げを管理するために、売上表の記入をお願いしている。リハーサル・本番で記入しているが、売り上げ金額の計算ができていなかったり、売れた商品の数と売上金額が合わなかったりするお店が多い。今後の店長会議において、売上表の書き方や計算方法のレクチャーの工夫を検討していく必要がある。さらに、こども店長が商品・景品をお金の受け渡しを行う際にしっかり確認を忘れず、お金を大切に扱うよう、呼びかけを行っていきたい。

ちなみに、今回午前・午後通しのお店が2店舗もあったが、その内1店舗は、お店の内容を午前と午後で変えていた。このことから、こども店長が1回の10円商店街で、2種のお店ができるという新たな可能性が見られた。今後、こども店長からの希望があれば、このような形も検討していきたい。

◇実施体制

主催：NPO 法人まちなびや

協力：静岡市番町市民活動センター、しずおか信用金庫、千代田スクール、
静岡大学教育学部塩田研究室

◇後援 静岡市教育委員会

◇大人スタッフ

板倉りえ子、多々良直樹、田中知子、戸谷雄一、廣瀬拓哉、村田優、弓削幸恵、
勝村明、水野瑚都 計9名



本事業は、池田屋「子ども思いの森 生きるカファンド」の助成によって実施しました。

子ども思いの森  池田屋